

令和 7 年度

「運営に関する計画」  
(中間評価)

大阪市立巽中学校

令和 7 年 1 0 月

## 大阪市立巽中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

## 学校の現状と課題

本校の教育目標である「人間尊重の精神を基盤とし、一人一人の生徒が心豊かに力強く生き抜く人材となる基盤をはぐくむための教育を推進する」を目指して取り組んでいる。学校全体としては、生徒が落ち着いて学習に取り組める環境となっている。しかし、一部の生徒は遅刻や欠席が多く、基本的な生活習慣や学習習慣が十分身につけていない。また、学習習慣が定着していない生徒、学習意欲の低い生徒が多い。

- ・一人ひとりの自己肯定感や学習習慣を高めるためにも、日々の学習や様々な活動や取組を通して、課題や困難を解決する力をつける機会を設け、自ら考え、行動し、協力して取り組む「主体的・対話的で深い学び」を推進していくことが継続して必要である。
- ・「自分は誰かの役立っている」「貢献している」等の自己有用感を高めることも自己肯定感を高めることにつながるため、「人の役に立つ」「相手に喜んでもらう」ような行事や体験を多く積むことを実施していく。
- ・学力の定着を図るために、放課後や長期休業中の時間を活用した学習会を開催し、家庭と協力して生活習慣や学習習慣の確立に向けた指導を引き続き、進める必要がある。また、日々効果的な学習者用端末の積極的な使用を目指す。
- ・今年度は不登校生徒や多様な状況にある生徒への対応、支援と読書習慣の定着、向上を目指し取り組んでいく。また、道筋をたてて話すことや文章を書くことが苦手な生徒も多い現状から、各教科や総合的読解力育成の授業を通し、対話的な教育活動を行い、「コミュニケーション能力」の向上にも引き続き取り組む。

## (大阪市教育局基本計画【中期目標】より)

## 【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を65%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使用について理解していますか」に対して肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を82%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思う」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査で「人の役に立つ人間になりたい」に対して肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。
- 災害発生時に「減災」の考えを踏まえ、危険を回避するために主体的に行動するとともに、支援者となる視点からも安全で安心な社会づくりに貢献できる人物を育成させる。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合

を 35%以上にする。

○令和 4 年度～令和 7 年度の全国学力学習状況調査における国語および数学の平均正答率の対全国比を 1.00 とする。

○令和 4 年度～令和 7 年度の大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 56%以上にする。

○令和 4 年度～令和 7 年度の年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 53.6%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業において学習者用端末を使用した割合を昨年度より増加させる。授業日においては生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く）

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 56%以上にする。

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 84%以上にする。

## 2 校内の年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。（R6 82%）

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（R6 11%）

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。（R6 60%）

○年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。（R6 89%）

○学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を 77%以上にする。（R6 77%）

○学校アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を 95%以上にする。（R6 95%）

○年度末の校内調査で「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。（R6 98%）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。（R6 47%）

○全国学力学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、前年度より上回る。（R6 国語 0.84、数学 0.80）

○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団におい

て経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。

※R6→2 年 (R6 対府比 国語 0.94 数学 0.87)、1 年 (R6 対府比 国語 0.93 数学 1.04)

○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 48%以上にする。(R6 46.9%)

○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合 62%以上にする。(R6 61%)

○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。

【R6 男 40.33(41.10) 女 48.14(47.37)】(全国平均値)

### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕

(R6 21%)

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 45%以上にする。(R6 43%)

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。(R6 77%)

○月 2 回のゆとりの日を設定し、定時退勤の推奨を行う。また、学校閉庁日を年 13 日以上設定する。(R6 長時間勤務 月/約 32 時間・閉庁日 13 日)

○年度末の校内調査における「本をよく読んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 43%以上にする。(R6 38%)

○放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動 (学校元気アップ事業も含む) を通して、生徒の居場所づくりや放課後学習支援の回数を昨年より増やす。

(R6 計 102 回開催、のべ利用人数 729 人利用)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

## 大阪市立巽中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> 1① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%) ※R6 いじめ認知件数15件 1② 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 不登校生32名 全体11%) 1② 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善や減少の割合を増加させる。(R6 2,3年生 不登校生徒→23名 →改善14名 改善割合60%) 1② 年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 89%) 1③ 年度末の校内調査で「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6 98%) 2④⑤ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を77%以上にする。(R6 77%) 2④⑤ 学校アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答を答える生徒の割合を95%以上にする。(R6 95%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】①いじめ対策</b> ・いじめを許さない仲間づくりを進め、互いを認め合い、支えあう集団を育成する。 ・委員会活動、生徒会活動の活性化を図り、行事を通して自主性を育て、規律ある学校生活の充実を図る。	B
<b>指標</b> ・毎日の心の天気の利用、いじめアンケートや教育相談の定期的な実施で、早期発見や初期対応をスムーズに行う。 ・いじめ事案に対して丁寧かつ的確な対応を行い、100%解消に取り組む。 ・全校集会や委員会活動、学年等の活動を通じて、積極的な呼びかけや取り組みを充実させる。	
<b>【進捗状況(10月)】</b> ・毎日の心の天気の利用や、定期的ないじめアンケートを実施することで、生徒一人ひとりの状況を担任や学年教員で把握している。 ・いじめ事案に対しては、聞き取りを迅速に行い、丁寧かつ的確な初期対応を心がけている。	

【結果（2月）】	
<p><b>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】②不登校対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ココカラルームなどを利用した別室登校など、生徒の実情に合わせた登校支援を行っていく。</li> <li>・家庭や関係機関との連携を密にし、生活習慣の乱れによる不登校の生徒の数を減少させる。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒（家庭）に、別室の認知を図り、登校の促しを強化していく。</li> <li>・不登校生徒の実態を把握し、家庭連絡や家庭訪問を密に行うことで、不登校生徒の在籍比率を減少させる。</li> </ul> <hr/> <p><b>【進捗状況（10月）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒（家庭）への対応を担当だけでなく、管理職・学年等で連携を取り、家庭連絡や家庭訪問を実施し、登校支援等を行っている。</li> <li>・不登校生徒等で教室に入りづらい生徒の対応として、ココカラルームを活用し登校や入室を促している。ココカラルームの環境整備は順調に進めることができている。</li> <li>・不登校生徒への対応として、ICTを活用した学習支援を行い、個別に応じた活用を実施している。</li> </ul> <hr/> <p><b>【結果（2月）】</b></p>	B
<p><b>取組内容【1、安全・安心な教育環境の実現】③スマホ、SNSの適切な使用と理解</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホやネットの安全教室を開催し、スマホに対する規範意識を高める。</li> <li>・関係機関等と連携を図り、トラブルの未然防止や早期発見に努める。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット安全教室の開催を行う。</li> <li>・スマホやSNSに対する危険性や使用方法等の理解を深め、アンケートで「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して肯定的な回答の割合を90%以上にする。</li> </ul> <hr/> <p><b>【進捗状況（10月）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に全校生徒に対してスマホ、ネット安全教室を行った。夏休みを迎えるにあたり、スマホの使用方法やSNSに対する危険性についての意識付けになった。</li> <li>・7月にPTAと連携し、保護者を対象としたネット上のトラブル防止等に関する講演会を昨年度に引き続き実施した。</li> <li>・生徒間でのSNSに関するトラブルは増えており、使用モラル・情報活用能力の向上や危険性に関する継続的な教育等行う必要がある。</li> </ul> <hr/> <p><b>【結果（2月）】</b></p>	B
<p><b>取組内容【2、豊かな心の育成】④⑤自己肯定感の向上（特別支援教育）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制をさらに充実させ、「特別な配慮を要する生徒への指導や対応」が学校全体で広く進み、個に応じた指導や支援の在り方を工夫する。</li> </ul>	B

<p>・特別支援学級の授業(入り込み、抽出)や通級指導において、該当生徒が達成感を得られるような取り組みやサポートを通し、自己肯定感の向上につなげる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校アンケートにおいて「励まし合ったり、注意したりするよい関係の友達がいる」の肯定的回答を90%以上とさせる。</li> <li>・特別支援学級在籍生徒に対して独自アンケートを実施し、「自分でできて嬉しかったことはありますか？」の項目で、肯定的な回答を80%以上にする。</li> </ul> <p>【進捗状況(10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制を充実させるにあたり、特別支援教育推進委員会を3回実施。密に生徒情報を共有し、個別の対応・配慮の充実に向けて取り組んでいる。</li> <li>・生徒と保護者からの要望通り授業(入り込み・抽出)を実施している。また1学期末の懇談時に教育相談を実施。授業におけるサポート内容の確認や変更をして、本人に合ったサポートをしている。</li> </ul> <p>【結果(2月)】</p>	
<p>取組内容【2、豊かな心の育成】④⑤自己肯定感の向上(人権教育・多文化共生教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会や諸団体と連携し、人権問題の現状を認識するために外部講師を招いて人権教育を深め実践を組織的に展開する。</li> <li>・国際的な平和と人権を守るための教育活動の重要性を理解し、教育活動に役立てることを目指す。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの人権を尊重し合える行動力を持つことのできる生徒を育成する。</li> <li>・国際クラブの活動を充実させ、民族講師からの講話を各学年で実施し生徒に働きかけていく。</li> <li>・ASD(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群)・ADHD・LD、性の多様性に関するSOGI(性指向・性自認)、不登校等について共有し、教育支援体制と連携する。</li> <li>・学校アンケートにおいて「自分にはよい所がある」の肯定的回答を80%以上にさせる。</li> </ul> <p>【進捗状況(10月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市人権研修会、地域人権教育研修会に参加し、実践内容の報告を共有した。</li> <li>・平和学習の教職員研修として、戦争の実相に迫り大阪城に残る戦争遺跡のフィールドワークを実施した。また、平和の尊さや命の大切さについて次世代に伝えていくことを目的とし、11月に平和学習の生徒向けの講演会を外部講師を招いて実施予定。</li> <li>・ウリ文化部は、オリニウンドンフェ、オリニマダンに参加。外国にルーツを持つ子どもたちが交流し、民族文化の紹介や交流を通じて多文化共生の理解を深めた。</li> <li>・国際多文化クラブ(中国クラブ)の活動は、定期的の実施し、計画的に進めることができている。</li> </ul> <p>【結果(2月)】</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

次年度への改善点



## 大阪市立巽中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>4① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。(R6 47%)</p> <p>4② 全国学力学習状況調査において国語および数学の平均点の対全国比を、前年度より上回る。(R6 国語 0.84、数学 0.80)</p> <p>4② 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。</p> <p>R6→2 年 (R6 対府比 国語 0.94 数学 0.87)、1 年 (R6 対府比 国語 0.93 数学 1.04)</p> <p>4③ 大阪市英語力調査 (GTEC) における C E F R ※A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 48%以上にする。(R6 46.9%)</p> <p>※GTECのトータルスコアの440点以上をCEFR A1レベル相当以上</p> <p>5④ 年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 62%以上にする。(R6 61%)</p> <p>5④ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点の全国比を男女とも上回る。【R6 男 40.33(41.10) 女 48.14(47.37)】(全国平均値)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】①授業力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の資質向上を目指し、研修の充実を図る。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。</li> </ul> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに相互授業参観週間と研究授業日を設け、一人ひとりの授業の工夫・改善、アップデートを目指す。</li> <li>・授業力アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」という項目に対して、肯定的な回答の生徒の割合を全教科において 85%以上にする。</li> </ul> <hr/> <p><b>【進捗状況 (10 月)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2 学期と学年別校内研究授業を行い、事後には全体で研究協議も行った。また、相互授業参観週間では、のべ 6 人 (9/24 現在) の先生方が参加したが、学年や教科を超えた相互参観の割合は少ない。積極的に利用できるような実施時期や方法など検討する必要がある。</li> <li>・校内アンケートは 12 月に実施予定だが、補習などを積極的に行い個に応じたきめ</li> </ul>	B

細やかな継続した指導を引き続き行う。(授業内容の習熟度向上も図る)	
【結果 (2 月)】	
<p><b>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ②学力向上、学びの保障</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末やデジタル教材など、授業で学習ツールを活用した授業づくりに積極的に取り組む。</li> <li>・タブレット機材のメンテナンスや ICT 機器やデジタル教材の整備や Wi-Fi 環境の点検を行い、教育内容に支障が生じないように取り組む。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びの保障」のため、非常時に家庭と学校の双方向オンライン授業（ハイブリット）授業を実施する。（不登校生への対応も含む）</li> <li>・学習活動で活かせるデジタル教材を効率よく活用する。</li> </ul> <p><b>【進捗状況 (10 月)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、双方向通信テストや不登校生徒への双方向通信は実施済みであるが、非常時のオンライン授業は現時点で実施していない。今後も長期欠席生徒については ICT 機器を活用した学習支援をする必要がある。</li> <li>・デジタル教科書の活用も含め各教科でタブレット端末を使用しているが、より効果的に活用する方法（ICT を活用した個別最適な学びと協同的な学び）を模索しながら、学力向上につなげていく必要がある。</li> </ul> <p>【結果 (2 月)】</p>	B
<p><b>取組内容【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ③英語力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用端末を使ったデジタル教科書を使い、個別学習を推進する。</li> <li>・定期テストの直前、長期休みの際に個別習熟度に応じた補習を行う。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末に授業アンケートを行い、英語の授業内におけるタブレット使用頻度に関する質問で肯定的な回答を 80%以上にする。</li> <li>・9 月に実施予定の英語検定、3 級以上の合格者を 30%以上にする。</li> </ul> <p><b>【進捗状況 (10 月)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/26 に 3 年生を対象に英検を実施した。結果は 11 月頃の予定。</li> <li>・学年ごとでテスト前の放課後や夏休み期間に未習熟生徒や英語力向上を目指す生徒向けに補習を実施した。</li> <li>・授業アンケートは未実施であるが、2 学期末に行う予定。</li> <li>・引き続きタブレットやヘッドセットを活用した授業を進める必要がある。</li> </ul> <p>【結果 (2 月)】</p>	B
<p><b>取組内容【5、健やかな体の育成】 ④運動の楽しさ、体力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持久力を高めるために、長距離走、水泳の分野を中心として積極的に取り組む。</li> <li>・保健体育の毎授業で集団行動の指導を行い、年間を通して授業規律を保つ。</li> </ul> <p>指標</p>	B

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力運動能力調査において、各 8 種目において全国平均値を上回る。(R6 は 7 種目で上回った。)</li> <li>・長距離走、水泳の授業で重点的に全身持久力を高める。(20m シャトルラン走で確認)</li> <li>・生徒アンケート「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである」の肯定的な回答を昨年度より 6%向上させる。(R6 は 79%)</li> </ul>	
<p>【進捗状況（10 月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力運動能力調査の結果が返却され次第、記載する。</li> <li>・2、3 年生の水泳では昨年度のタイムより速くなり、2 年生のシャトルランにおいて回数が多くなっている生徒が大半を占めた結果から、全身持久力を高めることができたと考える。(3 年生のシャトルランは 2 学期実施予定)</li> <li>・生徒アンケートがまとまり次第、記載する。</li> </ul>	
<p>【結果（2 月）】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

## 大阪市立巽中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>6① 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕(R6 生徒 8 割以上使用した割合→21.1%)</p> <p>7②「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (45 時間以内など) を満たす教職員の割合を 45%以上にする。(R6 43%)</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 (80 時間以内など) を満たす教職員の割合を 80%以上にする。(R6 77%)</p> <p>7② 月 2 回のゆとりの日を設定し、定時退勤を推奨する。また、学校閉庁日を年 13 日以上設定。月の時間外勤務時間を昨年度より減少させる (R6 長時間勤務 月/約 32 時間【市平均は 39 時間】・閉庁日 13 日実施)</p> <p>8③ 年度末の校内調査における「本をよく読んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 43%以上にする。(R6 38%)</p> <p>9④ 生徒 (放課後等) 支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動 (学校元気アップ事業も含) を通して、生徒の居場所づくりや放課後学習支援を充実させる。※R6 放課後学習会 計 102 回開催、のべ利用人数 729 人利用</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容【6、教育 DX の推進】①学習者用端末の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用端末を有効に活用した授業に取り組む。</li> <li>・オンライン学習の環境整備を行い、オンラインによる授業実践を実施する。</li> <li>・タブレット端末の管理、運用を継続的に行う。</li> </ul> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で学習用端末を活用した授業を年 1 回以上実施する。</li> <li>・タブレット端末の使用率の割合を増やす。(授業日は 100%使用かつ活用率 80%を 50%以上の日で実施)</li> </ul> <hr/> <p><b>【進捗状況 (10 月)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン学習 (双方向通信テスト) を 1 学期に実施済み。各クラス担任が独自の取り組みを行い、学校 (別室も含む) と家庭、双方向でのやり取りを行った。</li> <li>・ICT 支援員による校内研修 (Canva の使い方) を 1 学期に実施済み。各教科の制作物や課題等で Canva を活用している。</li> <li>・タブレット端末を効果的に活用する方法を模索しながら、使用頻度を高める努力が必要である。(4 月～8 月までで稼働 57 日中、日別活用率 80% 以上の日が 12 日間[年間達成率 21%])</li> </ul>	B

<p>【結果（2月）】</p>	
<p><b>取組内容【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】②働き方改革（時間外勤務等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会計年度職員の効果的な活用で業務の分担やスリム化をさらに進める。</li> <li>・月ごとの時間外勤務時間の減少と職場環境の整備や改善を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回のゆとりの日の設定（定時退勤の推奨）や学校閉庁日13日以上を設定。</li> <li>・時間外勤務（月平均32時間）の減少を引き続き進めていく。</li> </ul> <p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1～2回のゆとりの日を設定し、夏季休業中8日間の学校閉庁日を実施した。</li> <li>・4月～8月の時間外勤務時間は、昨年と比べ、月平均約2時間増加している。（約39時間/月）</li> <li>・教員以外の人材を効果的に配置、活用し、教員の部活動指導時間を含む時間外勤務時間の減少を引き続き進めていく。</li> </ul> <p>【結果（2月）】</p>	B
<p><b>取組内容【8、生涯学習の支援】③図書室利用、読書活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校主幹司書の配置により、毎日の開館と本の貸し出しで図書室の大幅な利用者の増加や活用を目指す。</li> <li>・「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づき、生徒が読書を楽しむための取り組み等を通して読書に親しむ時間を向上させる。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用や本の貸し出し冊数の大幅な増加を目指す。</li> <li>・校内調査「本をよく読んでいる」の肯定的な回答を40%以上にする。</li> </ul> <p>【進捗状況（10月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別棟（北館）で図書コーナーを設置し、より身近に本を読める環境整備等をおこなった。（引き続き生徒の状況や希望に応じた図書対応を実施する）</li> <li>・図書室の利用を増やすためにリクエストボックスや読書クイズ、読書チャートなど楽しめるアイテムを設置し、スタンプラリーも実施した。</li> <li>・学校校内アンケート（調査）は12月に実施予定。</li> </ul> <p>【結果（2月）】</p>	B
<p><b>取組内容【9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】④放課後学習等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページによる継続した情報発信を行う。また、学校協議会委員やPTA、地域との共同活動が充実するように学校運営を活性化させる。</li> <li>・放課後学習会（テスト前、長期休業中も含む）等の定期的な実施で学習習慣の定着を目指す。</li> </ul>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報提供のツールとしての学校ホームページの整備や更新を随時行い、昨年度よりアクセス数（閲覧数）を増加させる。（R6 38957 件）</li> <li>・校内調査（保護者）「連絡や情報提供を適切に行っている」肯定的な回答を 89%以上にする。</li> <li>・校内調査（保護者）「子どもは家庭学習（放課後学習）を習慣的に行っている」肯定的な回答を 50%以上にする。</li> </ul> <p>【進捗状況（10 月）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後学習会（元気アップ学習会）は毎日実施している。特に定期テスト前は参加者が増える。4 月～8 月の期間で実施回数は 90 回、延べ利用人数は約 400 人となっている。（R6 4 月～8 月 53 回、約 430 人）</li> <li>・校内アンケート（保護者）は 12 月に実施予定。</li> <li>・個人端末（スマートフォン等）を使用した生徒の撮影が不可となったが、引き続き学校ホームページ等を活用し、地域への情報提供を随時行っていく。</li> </ul> <p>【結果 2 月】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	